未来都市神戸の創造に向けて

平成３１年３月

神戸市会 未来都市創造に関する特別委員会

目　次

頁

■　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

■　委員会の審議経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

■　提言の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

■　協議の過程で一致しなかった内容・・・・・・・・・・・・・・・10

■　はじめに

本委員会は，三宮周辺地区の再整備を含む都心の大胆な活性化が打ち出されたのに対し，議会の立場から政策提言を行うことを目指し，平成 26 年度に設置されました。以来，神戸の魅力とは何か，神戸らしいまちづくりとはどうあるべきかについて，都心・三宮周辺地区を中心に議論を深めてきました。

特にこの一年は，三宮再整備に関する基本計画が策定され，事業が本格化していくなかで，激化する都市間競争もふまえ，あらためて他都市にはない神戸の魅力や神戸らしさについて協議するため，参考人を招致し，意見交換等を行うとともに，関連施設への視察を実施しました。

本委員会では，平成 26 年度に 18 項目からなる提言書を取りまとめ，市長に提出いたしましたが，その後，都心・三宮再整備事業の進捗に伴い新たな課題が浮かび上がってきたことから，この一年間，議論された意見を集約し，あらためて本提言を取りまとめました。協議の過程で意見が一致しなかったものについては，両論を併記し巻末にまとめています。

三宮再整備によりまちが生まれ変わるこの機会を，広く国内外に神戸の魅力を発信する絶好のチャンスと捉え，未来都市神戸が何度も訪れたくなる魅力あふれるまちとなることを希求し，本提言が輝ける未来都市創造の一助となることを期待いたします。

■　委員会の審議経過

1．委員会の設置

平成 26 年５月，２会期制の導入後初の臨時本会議が開かれ，三宮周辺・ウォーターフロント地区における都心の再生や市街地西部地域などの活性化の原動力となる神戸独自の魅力をいかに創出するか，またその基盤となる潤いある都市空間の整備や新たな交通手段を含む総合交通体系の整備など，新たな時代の神戸のまちづくりに関する必要な事項について調査するため，未来都市創造に関する特別委員会が設置された。

2．委員会のこれまでの経緯

26 年度は，18 項目からなる「神戸の未来都市創造に向けた提言書」を取りまとめ，久元市長に提出するとともに，市民報告会を開催した。

27 年度は，「神戸の都心の未来の姿［将来ビジョン］」，「三宮再整備基本構想」の策定や，都心三宮推進本部の設置に伴う本部会議及び部会における議論の進捗状況について審査を行うとともに，市街地西部地域の活性化について審査を行った。

28 年度は，これまでの委員会活動を踏まえ，今後の神戸のまちづくりの方向性について，多角的な視点から理解を深めるため，参考人聴取や委員間討議を行うとともに，関係局からの報告聴取や公共交通・駅周辺整備に関する行政調査を行った。

29 年度は，都心・三宮周辺地区の再整備において，基本計画の取りまとめや施設配置の方向性の検討が行われる重要な年であったため，特に，多様な立場の視点に立ったまちづくりを基本コンセプトとして，集中的に調査・議論を行った。

３．30 年度の委員会の活動状況

第１回：平成 30 年６月 22 日（金）

・正副委員長の互選，理事の選出

第２回：平成 30 年８月 17 日（金）

・委員会運営

第３回：平成 30 年 10 月 29 日（月）

・大都市ターミナル駅周辺のまちづくりについて意見聴取（参考人：大阪市立大学大学院工学研究科教授　嘉名光市氏）

・都心・三宮再整備の進捗状況について報告聴取（住宅都市局）

第４回：平成 30 年 11 月 22 日（木）

・大手町・丸の内・有楽町地区　エリアマネジメントによる街づくり　について意見聴取（参考人：三菱地所株式会社開発推進部エリアマネジメント推進室長兼特定非営利活動法人大丸有エリアマネジメント協会事務局長　藤井　宏章　氏）

・提言についての委員間討議

第５回：平成 30 年 12 月 26 日（水）

・提言についての委員間討議

第６回：平成 31 年１月 21 日（月）

・提言書案について委員間討議

行政調査：平成 30 年 12 月 17 日（月）～18 日（火）

①文京区から文京シビックホールについて説明聴取及び実地視察

②柏の葉アーバンデザインセンターからアーバンデザインセンター　について説明聴取

③大丸有エリアマネジメント協会からエリアマネジメントについて説明聴取及び実地視察

（未来都市創造に関する特別委員会委員）

委 員 長：平　井　真千子（自由民主党：長田区）

副委員長：岩　田　嘉　晃（こうべ市民連合：西区）

理　　事：佐　藤　公　彦（自由民主党：西区）

味口　としゆき（日本共産党：灘区）

吉　田　謙　治（公明党：西区）

三木しんじろう（日本維新の会：中央区）

委　　員：諫　山　大　介（共創・国民民主：灘区）
大前　まさひろ（日本共産党：中央区）
かわべ　宣　宏（自由民主党：長田区）
河南　ただかず（自由民主党：中央区）
堂　下　豊　史（公明党：北区）
川原田　弘　子（こうべ市民連合：垂水区）
沖　久　正　留（公明党：中央区）
金　沢　はるみ（日本共産党：北区）
守　屋　隆　司（自由民主党：兵庫区）

■ 提言の内容

１．都心・三宮周辺地区の再整備に関する提言

（１）回遊性の向上

【提言１】

国際観光都市として，観光客をはじめとする来街者の利便性向上やまちの回遊促進に向けた具体的な仕掛けづくりを行うこと。

【説明１】

三宮周辺地区が来街者にとって歩きたいまち，回遊しやすいまちになるよう様々な工夫が必要である。例えば，まちの看板（サイン）やマップなどに QR コードを入れ，エリア情報を多言語で入手できるようにすることで，外国人観光客も含めた全ての来街者の回遊利便性の向上に繋がる。特に看板（サイン）についてはリニューアルが行われるタイミングに合わせ，早急に検討することが求められる。民間のノウハウや活力もフレキシブルに利用しながら進めることを検討されたい。また，店舗等集客力のある施設を内向きのモール型（エンクローズド・モール）でなく外向き（オープンエア型）に配置することでも回遊性の向上を促進すると考える。

回遊性は公共交通機関などのモビリティとも密接に関係する。欧州では先に公共交通機関などのモビリティで動線や人の流れを作ってからまちづくりを行っている。三宮でもモビリティとリンクさせて人の流れを考えることを検討されたい。

【提言２】

「場づくり」,「カルチャーづくり」という観点で再整備を進めること。

【説明２】

物販がインターネットに移行しつつある現在において，まちづくりで重要となるのは人が集まる「場」や「文化」をつくることである。来街者にとって「歩き回りたいまち」となるため，新ホールを核とし,「場づくり」「カルチャーづくり」を意識しながら回遊性を高める仕掛けが必要ではないか。さらには，市内全域に「場づくり」「カルチャーづくり」を広げていくことで，神戸全体での回遊促進や文化振興の強化に繋げることも検討されたい。

【提言３】

三宮駅周辺の交通環境の整備にあたっては，段階に応じて，人の流れや周辺交通への影響を十分に検証しながら事業を進めること。

【説明３】

三宮クロススクエアは段階的に整備されることが計画されているが，人の流れや交通がスムーズに移行するのか，最終的に人と公共交通優先の空間とすることで問題はないのか，災害時などの対応状況もふまえて十分な検討が必要と考える。この

ため，整備途中の段階で，人の流れや交通への影響，人が集まるエリアとの兼ね合いなどを検証のうえ，人の流れなどが滞らないよう工夫しながら進められたい。例えば，三宮東側地区にも人の流れをつくるような仕掛けも検討して欲しい。

（２）エリアマネジメント

【提言４】

まちの統一感を創り出すため，広告も含め，エリア全体のデザインコードを早急に策定し，まちづくりに反映すること。

【説明４】

現在は民間マンションの公開空地など，整備する主体によってデザインがばらばらで，まちとしての統一感がない。既存の公開空地も含め，統一的なデザインとすることで，まちの魅力を効果的に打ち出すことができるのではないか。そのためには，官民で連携して早急にエリア全体のデザインコードを策定しておく必要がある。併せて広告デザインも統一的にマネジメントすることで，まちの統一感や賑わいづくりの創出にも繋げられたい。

【提言５】

神戸らしいまちづくりを行うため，地元人材等を積極的に活用すること。

【説明５】

地域住民・事業者に加え，地元中小企業やデザイン都市・神戸の拠点であるKIITO，神戸で生まれたスタートアップ企業などが広く参画できるよう工夫し，神戸らしいまちづくりが行える仕組みづくりを検討されたい。将来主体的にまちづくりを担う団体を育てるためには，計画段階から情報を共有し共に事業を進めていくことが重要である。既存の人材等を有機的に結び付けることで，地域の課題解決に向け，公民学が連携した総合的なまちづくりを行う仕組み・拠点づくりにも繋がっていくと考える。

（３）環境・エネルギー・防災への対応

【提言６】

エリア全体でのエネルギーの融通・共同利用を図るため，地域冷暖房システムの導入について早急に検討すること。

【説明６】

地域冷暖房システムの導入により，省エネルギー効果やコスト削減効果，環境保全を図ることができ，特に災害時に柔軟・迅速な対応が期待できる。一方で，導入にあたってはハード面，ソフト面ともに様々な課題があるため，まずは工法の検討などを早急に行い，導入の可否を決定することが必要である。加えて事業者調整についても行政主導で早急に対応されたい。

（４）「神戸らしさ」の創出

【提言７】

再整備で新しいまちにつくり変えるのでなく，既存のまちの活力や賑わい，文化を継承すること。

【説明７】

三宮にはオフィス街や旧居留地のようなおしゃれな雰囲気を持つエリアとは別に，昔ながらの庶民的な雰囲気を残しながら，若者が多く集まり活気や賑わいを創出するあじさい通りのようなエリアもある。その混在が三宮の良さであり，ビジネスオフィスや全国展開のチェーン店が入る高層ビルばかりでは他都市のまちの風景と何ら変わらない。再整備により既存のまちの雰囲気を損なうことなく，他都市にはない神戸の魅力を高めていく工夫が必要である。海（ウォーターフロント）と山という素晴らしい資源や，神戸のシンボルである花時計など，今あるものを最大限に活用し，既存のまちの魅力を取り込み面的に繋いでいくことで，普遍的な神戸らしさを打ち出していくべきである。

【提言８】

神戸らしさ，神戸の魅力，セールスポイント等を戦略的に考え，開発する専門チームを市役所内に作ること。

【説明８】

絶対に神戸に行きたい，世界中どこを探しても神戸にしかない，という神戸特有の魅力や，神戸の国際競争力とは何かについて，あらためて議論し明らかにする必要がある。そのため，今の来街者のニーズや学識経験者の意見もふまえ，既存のまちの資源や文化等をもとに，神戸らしさを戦略的に考え，開発する専門チームを市役所内に作ることを検討されたい。神戸の目指すべき方向性を明確にすることにより，再整備で生まれ変わるまちの方向性や魅力をよりクリアに国内外に打ち出して欲しい。

【提言９】

港町神戸が身近になる仕掛けづくりを検討すること。

【説明９】

クルーズ船や港めぐりなど「船に乗る」ことも港町神戸の魅力の一つであり「神戸らしさ」である。最近クルーズ船の神戸への寄港が増えている一方で，特に外国人にとっては，寄港地としての神戸の認知度はあまり高くない。このため，クルーズ船の乗船客にとって港町神戸の魅力を体感でき，再び訪れたくなる仕掛けづくりを早急に検討する必要があるのではないか。併せて，三宮駅を利用する来街者や市民が港に身近に親しめるよう，気軽に「船に乗る」ことができる仕組みも検討されたい。ポートターミナルなど港周辺の環境整備や港町らしい景観づくりに加え，三宮からウォーターフロントへのアクセスの改善など，戦略的に進め

て欲しい。

また，まちの玄関口となる公共空間では，ふさわしい音響的な演出も重要で　ある。例えば汽笛の音など，来街者にとって港町神戸に来たことを実感してもらえるような神戸らしい音を検討し，まち全体のトータルデザインに繋げていくことも検討されたい。

（５）新文化ホールの整備及び跡地の活用

【提言 10】

新ホールの整備にあたっては，建物のデザインや機能など具体的なイメージを早急に明らかにしたうえで，現在の文化ホールの歴史や文化を継承するという視点で整備を行うこと。

【説明 10】

新たに建設される大ホールは，国際的な音楽コンクールにも対応するグレードの高いホールとして，バスターミナルビル１期ビルに入ることが計画されている。しかし，バスターミナルの振動や騒音等のホールへの影響はないのか，エントランスは来場客にとって分かりやすく，入った瞬間に非日常的な雰囲気によって迎えられる空間となるのか，来場客と機材用の専用大型エレベーターが設置できるのかなど，解決すべき課題が多くある。神戸国際会館や神戸芸術センターなど近隣の同種施設との機能分担，役割分担も検討が必要であり，そうした課題をふまえたうえで，どのような機能，特色（セールスポイント）を持つホールとするのかを明確にし，建物設計を行うべきである。中ホール等との連携のあり方も含め，多面的に検討し，早急に新ホールの具体的なイメージを示されたい。

加えて，現在の文化ホールには利用者の思いも含め，長年繋いできた文化がある。それを新ホールに継承していくという視点を持ち整備を進められることを強く要望したい。

【提言 11】

新ホールに人を呼び込む新たな仕掛けを検討すること。

【説明 11】

新ホールを神戸の芸術文化の新たな核施設とするため，例えば，著名な音楽監督を招いたり，国内外で知名度の高い芸術団体と事業提携を行い定期イベントを開催するなど，思い切った取り組みが必要ではないか。現在の文化ホールの来場客だけでなく，新たな来場客を広く国内外から呼び込むために抜本的な仕掛けづくりを検討されたい。

【提言 12】

現在文化ホールのある大倉山エリアなどについては，地域全体で一体的なまちづくりを行うこと。

【説明 12】

歴史的な経緯や大倉山公園の文化的雰囲気なども活かしながら，まちの回遊性を高めるような「場づくり」に留意しつつ，大倉山全体で一体的なまちづくりを進められたい。なお，現在の文化ホールについても長寿命化を図る対策が必要と考える。

また，生田文化会館，葺合文化センターのあるそれぞれのエリアについても大倉山同様に文化的雰囲気を活かし,「場づくり」の視点でまちづくりを行われたい。

（6）その他再整備にあたって留意すべきこと

【提言 13】

再整備の全体像などを早急に示すこと。

【説明 13】

再整備が長期にわたるため，将来どんなまちになるのかなど具体的なイメージを地域住民・事業者だけでなく来街者にも打ち出していくことが重要である。市民の不安を払拭するためにも早急にまちの全体像を示すべきである。その際には事業費についても可能な限り示されたい。加えて，再整備後の三宮の姿を来街者目線で見せる動画などを作成し発信することを検討されたい。

【提言 14】

観光バス用の乗降場の設置について検討すること。

【説明 14】

近年都心部を中心に観光バスの路上駐車が増え，渋滞などの問題も発生している。こうした問題の解決のため，観光バス用の乗降場の設置についても検討されたい。

【提言 15】

若者の雇用創出や賑わいにつなげること。

【説明 15】

留学生も含めた神戸の学生が神戸で就職し，住み続けることができる好循環を生み出し，新たな賑わいが創出できるよう取り組まれたい。

2．広く神戸の未来に関する提言

【提言 16】

神戸ゆかりの人材の支援や資源の活用を行うこと。

【説明 16】

神戸には様々な分野で世界的に活躍する多くの人材がいる。こうした人材に，より能力を発揮し活躍してもらうため，市として様々な形で支援を行うことを検討できないか。神戸ゆかりの人たちが世界で活躍することは神戸の魅力発信やイ

メージアップにも繋がる。課題を整理のうえぜひ検討されたい。
　また「災害に強い」ことも神戸らしさ，神戸のキーワードである。既に様々な取り組みを進めているが，さらに神戸らしさを活かした，世界中で神戸しかできないような取り組みを具体的に検討されたい。

【提言 17】
　県市で連携しながら統一感のあるまちづくりを行うこと。
【説明 17】
　「神戸ビーフ館」の設置や元町エリア再整備事業など，県市それぞれが神戸で施設等の整備を行う際は，情報交換を密にし，県市で足並みをそろえながら進められたい。国際観光都市神戸にふさわしいまちづくりとなるよう，統一感を持って整備を行うべきである。

【提言 18】
　神戸が目指すべき文化芸術の方向性を明確にすること。
【説明 18】
　神戸の目指すべき方向をあらためて提示し，その実現のために何が必要かという観点で検討し，全市的なバランスも考慮のうえ，文化ホールや他の文化芸術施設のあり方を示していくべきではないか。

【提言 19】
　公共空間の整備において「心地よい音環境」を形成すること。
【説明 19】
　不特定多数の人々が行き交う公共空間では，大量の音が氾濫し，劣悪な音環境となっているところもある。公共空間の整備にあたっては，情報価値のある音を際立たせた「心地よい音環境」を形成することを留意されたい。

■　協議の過程で一致しなかった内容

① 大項目	② 提言案	③ ②に対する意見
都心・三宮周辺地区の再整備に関すること （６）その他再整備にあたって留意すべきこと	【提言】 新たな雇用創出のため，企業誘致を積極的に行うこと。 【説明】 三宮周辺地区の再整備を契機に一定規模の新たな雇用を創出できるよう，積極的な企業誘致を進められたい。	市外から新たに企業を誘致するのでなく，これまで神戸経済を担ってきた既存の地元中小企業等への支援・育成に力点を置くことで，雇用創出を図るべきである。
	【提言】 2025年大阪万博を見据え，整備計画を検討すること。 【説明】 2025年の大阪万博開催が決定し，今後関西経済は活況を呈することが予想される。国内外から関西へのインバウンド効果が期待されるなか，万博開催による経済効果を神戸経済に最大限取り込むため，バスターミナル１期ビル整備を2025年までに完了させるなど，整備計画の前倒しができないか検討されたい。	2025年大阪万博はカジノ・賭博場を中核とする統合型リゾート（ＩＲ）とセットで推進されているものであり，万博開催による経済効果が神戸経済の活性化に繋がるとは考えられない。
	【提言】 交通アクセス機能を強化すること。 【説明】 三宮周辺地区の再整備により誘客を促進し，賑わいを創出するため，都心部とＪＲ新神戸駅や神戸空港など周辺の交通拠点とのアクセス性の向上が急務であり，早急に取り組まれたい。また，三宮再整備に伴うインバウンド効果をはじめとする経済効果を市内全域に結び付けていくという観点から，市内全域の交通アクセス機能の強化によって経済波及効果を生み出す仕組みづくりも検討が必要である。	市内全域の交通アクセス機能の強化は重要だが，三宮一極集中の大規模開発による「呼び込み型」のまちづくりを前提とするのでなく，神戸の歴史や地域の文化を育み，既存の中小企業等を支援する「地域循環型」のまちづくりの中で進めるべきである。